

2018年 教員免許状更新講習 受講者募集要項

【2018. 04. 25 修正版】



<受講までの流れ>

①	ホームページから受講申込みをする。 申込者情報（連絡先・勤務校など）・受講希望講習を入力し、送信する。 →【更新講習受講申し込み確認メール】を受け取る。
②	申込受付期間終了後、【受講可否通知（メール）】を受け取る。 受講可の場合、メールと共に送られてくる申し込み関係書類を印刷・記入する。 なお、受講可否通知メールは4月12日（木）頃に送信する予定です。 ※申込受付期間終了時点で定員を超える場合は抽選となります。
③	提出準備1： 受講申込書に、所属長等の証明を受ける。
④	提出準備2： 受講料振込書で受講料を振り込み、受講料振込証明書を受講料振込証明書台紙に貼り付ける。
⑤	受講申込書・受講料振込証明書貼付台紙・事前アンケートを本学担当事務局宛に郵送する。
⑥	【手続き完了通知・受講証（郵送）】を受け取る。 受講証に証明写真を貼付する。 ※事前課題がある講習を受講する場合は、課題内容を同送します。
⑦	事前課題がある講習を受講する場合は、課題を実施して指定された期日までに提出する。
⑧	講習を受講。

※申し込み方法の詳細は p4-6 に記載しています。／認定試験については p6 に記載していません。

目 次

1.	教員免許状更新講習の開設趣旨	2
2.	受講対象者	2
3.	講習一覧.....	3
4.	募集人員.....	4
5.	申し込み方法	4
(1)	申込受付期間.....	4
(2)	申し込み手順.....	4
(3)	受講料	6
(4)	受講料納入方法.....	6
6.	受講に際して	6
7.	認定について	6
(1)	認定方法.....	6
(2)	認定結果の通知.....	7
8.	教員免許状更新講習受講者評価書について.....	7
9.	個人情報の取り扱いについて.....	7
10.	その他	7
(1)	連絡方法について	7
(2)	写真などの撮影について	7
(3)	昼食について.....	7
(4)	喫煙について.....	7
(5)	自家用車での来学について.....	8
(6)	講習の中止及び予備日について	8
(7)	法定伝染病により受講ができない場合について	8
(8)	傷害保険について	8
(9)	受講上配慮を必要とされる方について	8
11.	問い合わせ先	8
12.	講習スケジュール.....	9
13.	本学アクセスマップ	10
14.	講習シラバス	11

1. 教員免許状更新講習の開設趣旨

平成21年4月1日より教員免許状更新制が導入され、教職課程を有する大学の責務として、また、社会の要請に応じることを目的として、本学において教員免許状更新講習を開設するものです。

2. 受講対象者

受講対象者は、普通免許状又は特別免許状を有する方で、以下に該当する方です。

- ① 現職教員（校長、副校長、教頭を含む。但し、指導改善研修中の方を除く）
- ② 教員採用内定者
- ③ 教育委員会や学校法人などが作成した臨時任用（または非常勤）教員リストに登載されている方
- ④ 過去に教員として勤務した経験のある方
- ⑤ 認定こども園で勤務する保育士
- ⑥ 認可保育所で勤務する保育士
- ⑦ 幼稚園を設置する者が設置する認可外保育施設で勤務している保育士

上述の①～⑦に該当する方の中で**今年度の受講対象者**となるのは、旧免許状所持者のうち次の生年月日に該当する方もしくは、修了確認期限の延期申請をしており、今年度本学で開講する更新講習の日程が延期後の受講期間に該当する方及び、新免許状所持者で免許状の有効期間の満了の日が平成31年（2019年）3月31日及び平成32年（2020年）3月31日の方です。複数の新免許状を所持する場合、すべての免許状の有効期間の満了の日が最も遅い有効期間の満了の日となりますのでご注意ください。

詳細は以下のホームページで確認してください。

文部科学省：http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/koushin/index.htm

大阪府教育委員会：<http://www.pref.osaka.lg.jp/kyoshokuink/kousinsei/index.html>

□ 生年月日

生年月日	更新講習の受講期間	修了確認期間
昭和59年4月2日～ 昭和49年4月2日～昭和50年4月1日生 昭和39年4月2日～昭和40年4月1日生	2020年1月31日 まで	2020年3月31日 まで
昭和58年4月2日～昭和59年4月1日生 昭和48年4月2日～昭和49年4月1日生 昭和38年4月2日～昭和39年4月1日生	2019年1月31日 まで	2019年3月31日 まで

3. 講習一覧

領域	講習名		主な受講対象者	開設日
必修 (6時間)	【A】	最新の教育動向と子ども理解	全教員	7月30日 (月)
選択必修 (6時間)	【B】	組織的対応の必要性和危機管理上の課題	<学校種> 幼・小・中・高・特支 <免許職種、教科等> 特定しない <職務経験等> 特定しない	7月31日 (火)
選択 (各6時間)	【C1】	児童生徒の理解に役立つ社会心理学	<学校種> 幼・小・中・高 <免許職種、教科等> 教諭(全教科)	8月1日 (水)
	【C2】	持続可能な社会をめざす環境教育	<学校種> 小・中・高 <免許職種、教科等> 教諭(全教科)	8月1日 (水)
	【C3】	地理情報システムを利用した統計データの地図化と教育への活用	<学校種> 小・中・高 <免許職種、教科等> 教諭(全教科)	8月2日 (木)
	【C4】	カウンセリングと教員	<学校種> 小・中・高 <免許職種、教科等> 教諭(全教科)	8月2日 (木)
	【C5】	日本政治の諸問題	<学校種> 小・中・高 <免許職種、教科等> 教諭(全教科)	8月3日 (金)
	【C6】	情報通信技術と教育	<学校種> 幼・小・中・高 <免許職種、教科等> 教諭(全教科)	8月3日 (金)

※開設日と同じ講習は重複して受講できません。

※選択領域講習において、養護教諭、栄養教諭の受講は受け付けることができません。

4. 募集人員

【必修領域講習】50名 【選択必修領域講習】50名 【選択領域講習】各50名

5. 申し込み方法

(1) 申込受付期間

申込受付期間は、必修領域講習・選択必修領域講習・選択領域講習とも以下のとおりとなります。

申込受付期間	2018年3月23日（金）9時00分～2018年4月5日（木）17時00分まで
--------	---

*追加募集について

第一次締切日以降の募集がある場合は、5月7日（月）9時00分からホームページ上で募集をします。

(2) 申し込み手順

受講申し込みは、本学公式ホームページのトップページからリンクしている、教員免許状更新講習サイト (<http://www.osaka-gu.ac.jp/events/2018/08/koushin30>) から申請し、以下に示す各手続きを行ってください。

なお、申込受付期間終了の時点で定員を超えている講習は抽選により受講者を決定します。

ただし、次の方については受付を優先します。

- ・ 本学併設校の教職員（非常勤講師を含む）
- ・ 本学卒業生（事前連絡が必要）

また、各講習とも申込者が5名に満たない場合は開催を中止することがあります。

① ホームページから受講申込みをする

教員免許状更新講習サイトにアクセスして、申込フォームから受講申し込みを行ってください。

□ 申込者情報を入力する。

申込フォームの各項目を漏れなく入力してください。

② 申込受付期間終了後、【受講可否通知（メール）】を受け取る

受講可の場合、メールと共に送られてくる申し込み書類を印刷・記入する。

申込受付期間終了後、本学担当事務局より、【受講可否通知メール】が届きます。受講可能な場合、申込書類（受講申込書／受講料振込用紙／受講料振込証明書貼付台紙／事前アンケート）を併せてお送りします。これらの書類を印刷・記入し、それぞれ提出準備を行ってください。

なお、受講可否通知メールは4月12日（木）頃に送信する予定です。

□ 受講申込書（A4サイズ・両面印刷）

受講申し込みのための情報を記入し証明写真を貼付してください。なお、証明写真（縦4cm×横3cm、正面・上半身・脱帽・無背景・3ヶ月以内に撮影）は裏面に氏名を記入し、貼付してください。

□ **受講料振込用紙**

受講料を振り込む際にご利用ください。

□ **受講料振込証明書貼付台紙**

受講料を振り込んだ際に受け取った受講料振込証明書を貼り付ける台紙です。氏名等を記入してご提出ください。

□ **事前アンケート（課題意識調査）**

受講者の皆様のニーズおよび学習動機を本学が把握するとともに、皆様ご自身が、これまでの教職経験を振り返る契機とすることを目的とした事前アンケートですので、必ずご提出ください。

なお、必ずしもご希望にお答えできない場合もあることをご了承ください。

③ 提出のための準備-1

□ **受講申込書に、所属長等の証明を受ける。**

写真貼付、記入が済んだ受講申込書に、所属長の職名・氏名を記入のうえ、証明印（公印）を押印してください。証明印が個人印の場合は受付できません。

④ 提出のための準備-2

□ **受講料振込用紙で受講料を振り込み、受講料振込証明書を受講料振込証明書貼付台紙に貼り付ける。**

受講料振込用紙を利用して受講料を振り込んでください。その際に受け取った受講料振込証明書を受講料振込証明書貼付台紙に貼付してください。

⑤ 受講申込書・受講料振込証明書貼付台紙・事前アンケートを本学担当事務局に郵送する

提出準備の完了した、受講申込書・受講料振込証明書貼付台紙・事前アンケートを以下の送付先まで郵送してください。

なお、これらの書類の提出期限は、4月26日（木）（消印有効）です。期限厳守にご協力をお願いします。

送付先：〒564-8511 吹田市岸部南二丁目 36 番 1 号

大阪学院大学 教務事務室教務課 教員免許状更新講習担当

⑥ 【手続き完了通知（郵送）】が届く

手続きは以上です。郵送した書類に不備等がなければ【手続き完了通知】と受講証が届きます。受講証には証明写真を貼付し、受講日にご持参ください。

なお、講習によっては、事前に提出していただく課題が提示されているものがあります。申し込んだ講習に事前課題がある場合は、手続き完了通知と同送しますので、定められた期日までに提出するようにしてください。

(3) 受講料

必修領域講習（6時間）	6,000円
選択必修領域講習（6時間）	6,000円
選択領域講習（各6時間）	各6,000円

(4) 受講料納入方法

受講料納入の際には、必ず専用の振込用紙(メールに添付してあるもの)を利用して、4月26日(木)までに金融機関の窓口から振り込んでください。期日までに振り込まれなかった場合、受講申し込みが無効となりますのでご注意ください。

なお、やむをえずATMから振り込む場合は、必ず振込依頼書に記載されている入金コードと氏名(フリガナ)の順に打電して振り込みを行い、振り込んだ際の利用明細書(コピー)を受講料振込証明書貼付台紙に貼付して提出してください。なお、振込手数料は申込者負担となります。予めご了承ください。

領収書は、改めて発行しませんので、振込領収書は各自で必ず保管しておいてください。また、受講申し込みを万一キャンセルする場合、受講料の返金に当たって事務手数料(1,000円)がかかります。予めご了承ください。

6. 受講に際して

講習当日必要なものは以下のとおりです。(教材テキストは当日配付します。)

- 受講証(あらかじめ証明写真を貼付したもの)
- 筆記用具
- 上着など

(教室内はエアコンで温度調整していますが、個人により体感温度は異なりますので、温度調節ができる服装でお越しください)

7. 認定について

(1) 認定方法

講習履修の認定は、認定試験の成績ならびに出席の状況に基づいた評価によって行われます。それぞれの評価に関わる留意事項は次のとおりです。

- 出席
遅刻や早退などの場合は認定されません。

- 認定試験
認定試験を実施します。試験の内容は受講された講習に基づいており、講習内容への理解確認を行います。これを受験されない場合は認定されません。また、不正行為があった場合も認定されません。

なお、修了認定については認定試験(ならびに事前課題等がある場合は提出された課題)の結果に基づき、「認定・不認定」で評価を行います。

(2) 認定結果の通知

各講習の認定試験の結果、認定基準に達した受講者には、9月下旬までに修了証明書もしくは履修証明書を郵送します。本発送を持って結果発表とします。

この証明書は、免許管理者（勤務する学校（園）所在地の都道府県教育委員会）へ更新講習修了確認の申請を行う際に必要となりますので、大切に保管してください。

なお、30時間以上の講習の課程を修了された場合は、証明書を添えて最初の修了確認期限の2か月前までに免許管理者へ申請してください。

8. 教員免許状更新講習受講者評価書について

各講習日の認定試験終了後、今後の教員免許状更新講習の改善と更新講習に関する情報提供のために教員免許状更新講習受講者評価書の記入をお願いしています。履修認定に係る評価には一切影響ありませんのでご協力をお願いします。

9. 個人情報の取り扱いについて

個人情報については、「独立行政法人等の所有する個人情報の保護に関する法律」及び「大阪学院大学個人情報保護基本方針」に基づいて取り扱います。

受講申込書等に記載いただいた個人情報については、本学で実施する講習の目的以外には利用しませんが、都道府県教育委員会より履修認定に関する照会があった場合に限り情報を提供することがあります。

なお、いったん提出された書類は、事情に関わらず一切返却しません。

10. その他

(1) 連絡方法について

メール又は、公式ホームページ等でご連絡します。

また、申し込みから受講修了まで数か月に渡ります。申し込み手続き完了後、メールアドレスや住所などに変更が生じた場合は、できるだけ早い時点でご連絡ください。

(2) 写真などの撮影について

講習の状況を写真やビデオに記録し、ホームページ等に掲載することがあります。但し、個人を特定できるものではありません。ご了承願います。

(3) 昼食について

講習期間中、学生食堂の営業は予定しておりません。近隣にコンビニエンスストアや飲食店はありますが、事前にご準備いただくことをお勧めします。

(4) 喫煙について

学内は喫煙場所（体育館横の灰皿設置場所）を除き禁煙となっております。指定場所での喫煙にご協力をお願いします。

また、本学周辺道路は吹田市環境美化に関する条例により、吹田市環境美化推進重点地区および路上喫煙禁止地区に指定されていますので、ご配慮願います。

(5) 自家用車での来学について

本学では、学生の自家用車での通学を禁じていることから、十分な駐車場をご用意しておりません。公共の交通機関をご利用のうえお越してください。

(6) 講習の中止及び予備日について

鉄道の運休・自然災害等のため、やむを得ず講習を中止する場合があります。また、その他の非常変災により講習実施が困難であると本学が判断した場合には、講習を中止する場合があります。

- ① 阪急電車・西日本旅客鉄道（大阪～京都間）のいずれかが、午前6時の時点で運休している場合、講習を中止します。
- ② 大阪府・京都府南部・兵庫県南部のいずれかに暴風警報、特別警報が午前6時の時点で発令されている場合、講習を中止します。
- ③ 自然災害や火災などにより、講習実施が難しいと判断される場合、講習を中止します。

なお、講習の中止を決定した場合は、受講者宛にメールで連絡します。
その場合、予備日として8月4日（土）を設定しています。詳細につきましては後日ホームページ等でお知らせします。

(7) 法定伝染病により受講ができない場合について

インフルエンザ等の感染症の場合など、本学が受講困難であると判断した場合は受講いただけませんので、予めご了解ください（判断が難しい場合は、本学教員免許状更新講習担当まで問い合わせてください）。なお、この場合、講習前、途中にかかわらず講習受講料は全額返金します。

(8) 傷害保険について

教員免許状更新講習の主催者として、教員免許状更新講習のための保険には加入しませんので、傷害保険等の加入は受講者各人の判断によりご対応願います。

(9) 受講上配慮を必要とされる方について

受講上配慮を必要とされる方は、申し込みをする前に本学教員免許状更新講習担当までお電話にてお問合せください。なお、本学では受講の際または修了認定試験時におけるノートテイク・手話通訳・点字・移動補助者等の確保や修了認定試験時間の延長には対応できませんので、予めご承知おきください。

11. 問い合わせ先

大阪学院大学教務事務室教務課 教員免許状更新講習担当

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南二丁目 36 番 1 号

TEL (06)6381-8434 (代表) e-mail : koushin@ogu.ac.jp

*緊急を要する件については、メールでのお問い合わせはご遠慮いただき、電話でのお問い合わせください。

12. 講習スケジュール

すべての講習日において、受付にて受講証(写真貼付のこと)によるご本人確認を行います。

受付は8:30から始めますので、講習開始時間までにお済ませください。

受付は、講習により異なります。受講手続き完了通知に同封の「受付及び講習実施教室の変更について(ご案内)」をご確認してください。

*講習の進度により講習順番、時間など変更が生じる場合があります。

【A】必修領域講習(6時間):7/30(月) 9:00~17:15

80分 講習 9:00 }	休憩	80分 講習 10:30 }	昼 食	50分 講習 12:40 }	休憩	70分 講習 13:40 }	休憩	80分 講習 15:00 }	休憩	認定 試験 16:30 }	7:00 記入 17:10 }
10:20		11:50		13:30		14:50		16:20		17:10	17:15

【B】選択必修領域講習(6時間):7/31(火) 9:00~17:00

80分 講習 9:00 }	休憩	80分 講習 10:35 }	昼 食	80分 講習 12:55 }	休憩	80分 講習 14:30 }	休憩	認定 試験 16:05 }	7:00 記入 16:55 }
10:20		11:55		14:15		15:50		16:55	17:00

【C1~C6】選択領域講習(各6時間):8/1(水)~8/3(金) 9:00~17:00

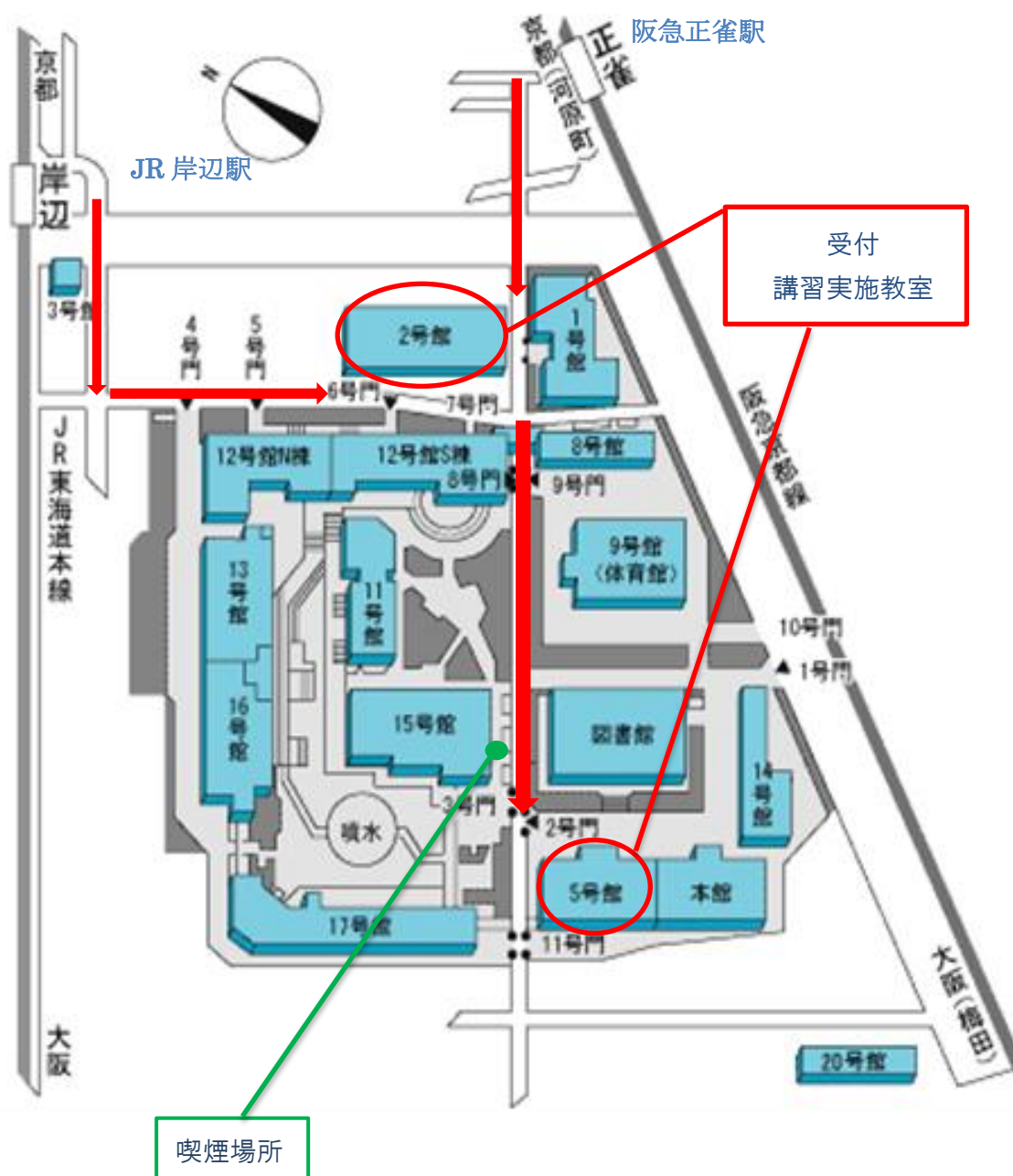
80分 講習 9:00 }	休憩	80分 講習 10:35 }	昼 食	80分 講習 12:55 }	休憩	80分 講習 14:30 }	休憩	認定 試験 16:05 }	7:00 記入 16:55 }
10:20		11:55		14:15		15:50		16:55	17:00

13. 本学アクセスマップ

JR 岸辺駅または阪急正雀駅より徒歩5分
公式 HP でご確認ください。

<http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/access.html>

■ キャンパスマップ



* 受付・講習会場、喫煙場所を募集時から変更しました。
各講習実施教室は、シラバス (p.12~) でご確認ください。

14. 講習シラバス

【A】必修領域講習：最新の教育動向と子ども理解

【概要】

講習の概要	「国の教育政策や世界の教育の動向」、「教員としての子ども観、教育観等についての省察」、「子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）」、「子どもの生活の変化を踏まえた課題」の4つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。内容に応じて受講者同士の意見交換やワークショップを行い理解を深める。
認定試験	講習終了後に筆記試験を実施し、これを評価します。
教材・参考資料	当日、配付します。
事前課題	課題の内容や提出方法等は、受講申込みの後、手続き完了通知と併せてお送りします。

【担当講師】

項目	講習科目名	担当講師氏名（所属・役職）
教員としての子ども観、教育観等についての省察	教職についての省察	杉山 伸一 （商学部 講師）
国の教育政策や世界の教育の動向	教育政策の動向と法令改正 および世界の教育の動向	南部 潔 （大阪府教育センター カリキュラム開発部部长）
子どもの発達に関する脳科学、心理学等における最新の知見（特別支援教育に関するものを含む。）	子どもの発達に関する科学的知見と生活の変化に応じた指導	谷口 高士 （情報学部 教授）
	特別支援教育の推進—教室でインクルーシブ教育をどのように進めるか—	山田 章 （特別教育支援士）
子どもの生活の変化を踏まえた課題	カウンセリングと子ども理解	木村 正徳 （商学部 講師）

【A】必修領域講習

開 講 日	7月30日(月)	講 習 時 間	9:00 - 10:20
時 間 数	80分	形 態	講義・グループ討論
教 室	05-B1-01 教室	事 前 課 題	あ り

講習科目名	教職についての省察
講 師 名 (所属)	杉山 伸一 (商学部 講師)
講習概要	学校を巡る近年の状況変化について理解を深めるとともに、教員に求められる資質能力、教員としての子ども観・教育観等の視点から、教育現場での現状を振り返りながら、講義と情報交換を主とした討論を組み合わせた授業をおこなう。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校を巡る近年の様々な状況変化について、客観的かつ具体的に理解することができる。 ・ 教員に対して、地域・保護者が何を求め、何を期待しているかを、これまでの個々の教育現場での実践を振り返り、現状と問題点を把握し改善策を考えることができる。 ・ 討論を通して、小・中・高のさまざまな教育現場での実践経験や課題を共有することにより、教員一人ひとりが自らの問題として自覚することができる。
講習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校を巡る近年の状況の変化 <ol style="list-style-type: none"> ① 近年の教育改革の動向と学校の状況変化の把握 ② 教師の指導力について～確かな学力向上のための授業改革を中心に～ ③ 学習や生活に関する児童・生徒の意識の変化、学校や教員に対する保護者の意識と期待 2. 専門職たる教員の役割と課題は何か？ <ol style="list-style-type: none"> ① 1での学校を巡る近年の状況の変化を踏まえて、適切な指導の在り方を受講者同士の情報交換・グループ討論を中心に行う。 ② 授業づくり、学級づくり、生徒指導、キャリア教育などの各テーマに分かれて勤務校での現状を中心に発表・討論を行い、専門職たる教員の役割と課題について考える。

【A】必修領域講習

開 講 日	7月30日(月)	講 習 時 間	10:30 - 11:50
時 間 数	80分	形 態	講 義
教 室	05-B1-01 教室	事 前 課 題	あ り

講習科目名	教育政策の動向と法令改正および世界の教育の動向
講 師 名 (所属)	南部 潔 (大阪府教育センター カリキュラム開発部 部長)
講習概要	法令改正及び国の審議会の状況等および近年の世界の教育の特徴
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令改正、国の審議会の状況等を理解する。 ・ 近年の状況を踏まえた学力向上の取組について考える。 ・ 近年の世界的な教育の特徴を理解する。
講習内容	<p>法令改正、国の審議会の状況等</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもを取り巻く社会状況の動向を知る。 ② 次期学習指導要領等の方向性について理解する。 ③ 学力等にかかわる国・府の動きについて理解する。 ④ 近年の世界の特徴的な教育の考え方や取組を知る。

【A】必修領域講習

開 講 日	7月30日(月)	講 習 時 間	12:40 - 13:30
時 間 数	50分	形 態	講 義
教 室	05-B1-01 教室	事 前 課 題	あ り

講習科目名	子どもの発達に関する科学的知見と生活の変化に応じた指導
講 師 名 (所属)	谷口 高士(情報学部 教授)
講習概要	科学的視点に基づく発達の捉え方、ワーキングメモリと行動や学習上の問題との関係を中心とする子どもの発達に関する最新の科学的知見、子どもの生活の変化を理解し、それらを踏まえた具体的な指導法を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの発達を科学的に捉えることができる。 ・ ワーキングメモリの働きを中心に子どもの行動や学習上の問題を理解し対応を考えることができる。 ・ 子どもの生活の変化を理解し適切な指導を考えることができる。
講習内容	<p>子どもの発達と生活の変化の理解と指導</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 科学的知見に基づいて発達を捉える ② ワーキングメモリの働きから学習や行動を理解する ③ 現代の子どもの生活上の問題点を認識する <p>※次の時間の最後に、本科目の内容も含めて、受講者同士の情報交換をおこなう予定である。</p>
受講上の意注	短時間での情報交換を有意義なものにするために、子どもの発達や学習に関する具体的な問題や疑問を考えてきて、それを踏まえて講義・情報交換に臨んでいただきたい。情報交換では積極的な発言を望む。

【A】 必修領域講習

開 講 日	7月30日(月)	講 習 時 間	13:40 - 14:50
時 間 数	70分	形 態	講義・グループ討論
教 室	05-B1-01 教室	事 前 課 題	あ り

講習科目名	特別支援教育の推進 一教室でインクルーシブ教育をどのように進めるかー
講師名 (所属)	谷口 高士(情報学部 教授) 山田 章(特別教育支援士)
講習概要	インクルーシブ教育システムの構築をめざす特別支援教育について国・府の動向を学ぶとともに、子ども一人一人の発達段階や状態等の子ども理解に応じた指導・支援の在り方について考える。
到達目標	・インクルーシブ教育システムの構築に向けた国・府の動向と実際の支援教育について。 ・子ども一人一人の教育ニーズに応じた指導・支援を一斉授業に取り込む理論や方法を理解する。
講習内容	① インクルーシブ教育システムの構築をめざす特別支援教育の実情について ② 一斉授業の中での多様な学びの場の確保とは？ ③ 子ども一人一人の発達と理解をふまえた指導・支援について ※最後に、前の科目の内容も含めて、受講者同士の情報交換をおこなう予定である(20分程度)。
受講上の意注	短時間での情報交換を有意義なものにするために、個人の特性に応じた支援に関する具体的な問題や疑問を考えてきて、それを踏まえて講義・情報交換に臨んでいただきたい。情報交換では積極的な発言を望む。

【A】必修領域講習

開 講 日	7月30日(月)	講 習 時 間	15:00 - 16:20
時 間 数	80分	形 態	講 義
教 室	05-B1-01 教室	事 前 課 題	あ り

講 習 科 目 名	カウンセリングと子ども理解
講 師 名 (所属)	木村 正徳(商学部 講師) ※担当講師の所属が変更になりました。
講 習 概 要	・ カウンセリングについて(講義と演習) ・ 子ども理解(子どもを取り巻く生活環境の変化から) ・ 教員のあり方についての省察
到 達 目 標	・ カウンセリングの理論と実際を通して「聴くこと」を知る ・ 生活環境の変化と子どもについて理解する ・ 教員のあり方を省察する
講 習 内 容	1. カウンセリングの理論と実際(参加者相互のロール・プレイ) 「聞くこと」と「聴くこと」 2. 現在社会と子ども理解 ① 現代社会の特徴 ・ 核家族・少子化・IT 機器・家庭 ② 現在の子どもの考える 3. 教員のあり方への省察 ① 児童・生徒理解とは ② 教師の態度について

選択必修領域講習	〈試験時間〉16:30-17:10(解答時間40分間)途中退室不可
認 定 試 験	〈教 室〉05-B1-01

*認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。

【B】選択必修領域講習：組織的対応の必要性と危機管理上の課題

【概要】

講習の概要	「様々な問題に対する組織的対応の必要性」、「学校における危機管理上の課題」の2つの事項について、教員に求められる最新の知識・技能の修得と今日的な教育課題についての理解を深めることを目指す。内容に応じて受講者同士の意見交換やワークショップを行い理解を深める。
認定試験	講習終了後に筆記試験を実施し、これを評価します。
教材・参考資料	当日、配付します。
事前課題	課題の内容や提出方法等は、受講申込みの後、手続き完了通知と併せてお送りします。

【担当講師】

項目	講習科目名	担当講師氏名 (所属・役職)
様々な問題に対する組織的対応の必要性	学校と保護者・地域の コミュニケーションと連携	谷口 高士 (情報学部 教授)
学校における危機管理上の課題	児童・生徒及び教職員の 安全確保の方策	高田 裕文 (商学部 講師)

【B】 選択必修領域講習

開 講 日	7月31日(火)	講 習 時 間	9:00 - 10:20 <15分休憩> 10:35 - 11:55
時 間 数	160分	形 態	講義・グループ討論
教 室	05-B1-01 教室	事 前 課 題	あ り

講 習 科 目 名	学校と保護者・地域のコミュニケーションと連携
講 師 名 (所属)	谷口 高士(情報学部 教授)
講 習 概 要	学校と保護者・地域との連携やコミュニケーション、学校評価と情報開示、および、子どもや保護者への対応の現状と問題点を把握し、よりよい取り組みを実践していくために、講義と情報交換を主とした討論を組み合わせた授業をおこなう。
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と保護者・地域との連携やコミュニケーション、学校評価と情報開示について、他校や他地域の取り組みを知り実践を生かすことができる。 ・学校における子どもや保護者の問題の現状と課題を把握し、改善策を考えることができる。 ・上記に関して、教員一人ひとりが自らの問題として危機意識・当事者意識を自覚することができる。
講 習 内 容	<ol style="list-style-type: none"> ① 保護者と学校とのコミュニケーションの問題 ② 学校・保護者・地域社会との連携 ③ 保護者・地域による学校評価と情報開示 ④ 保幼小中高連携の視点 <p>※講義の中で受講者同士の情報交換をおこなう予定である。</p>
受 講 上 の 意 注	情報交換を有意義なものにするために、学校と保護者・地域との間の具体的な悩みや取組の成果を考えておいてほしい(事前レポートの内容)。情報交換では積極的な発言を望む。

【B】 選択必修領域講習

開 講 日	7月31日(火)	講 習 時 間	12:55 - 14:15 <15分休憩> 14:30 - 15:50
時 間 数	160分	形 態	講義・グループ討論
教 室	05-B1-01 教室	事 前 課 題	あ り

講 習 科 目 名	児童・生徒及び教職員の安全確保の方策
講 師 名 (所属)	高田 裕文(商学部 講師)
講 習 概 要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校内外における児童・生徒及び教職員の安全確保の方策に関して、総合的に把握するための講義等を行う。 ・個別のケースを事例として取り上げ、危険等発生時対処要領に沿って概ね対応できる場合及び臨機応変に対応すべき場合について、情報交換等を行うことにより、実践的な理解を図る。
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理(安全確保)に必要な諸要素と全体像に関する理解を図ることによって、様々なケースへの適切な対応を事前にシミュレーションできる。 ・安全確保に関して、組織的に行う学校全体の活動の中で、自らの役割を理解し実践できる。 ・安全確保に関する心構えの深まり等を通して、今後、危機管理のための具体的方策に一層習熟・実践できる基盤づくりができる。
講 習 内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「危機管理(安全確保)」の基本的かつ総合的な理解。 2. 危険等発生時対処要領(危機管理マニュアル)の在り方。 3. 児童生徒への安全教育の在り方。 4. 各校で実践・想定している危機管理の具体的事例を材料に、起こりうるケースと対処法に関する検討・情報交換・発表とまとめ。 <p>【注】</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 受講者の講義等に対する状況を踏まえ、若干の内容変更を行う場合があります。 ② 受講者は、上記4での情報交換・事例研究で、どこでもやっているような内容ではなく、他に参考になり、かつ取り入れる価値のある体験例・積極的方策を披露・検討できるよう準備しておいてください。

選択必修領域講習	<試験時間> 16:05-16:55 (解答時間 40 分間) 途中退室不可
認 定 試 験	<教 室> 05-B1-01

* 認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。

【C】 選択領域講習

【概 要】

講 習 の 概 要	選択領域講習では、「児童生徒の理解に役立つ社会心理学」「持続可能な社会をめざす環境教育」「地理情報システムを利用した統計データの地図化と教育への活用」「カウンセリングと教員」「日本政治の諸問題」「情報通信技術と教育」について、それぞれの分野の専門スタッフが講師を務める。
認 定 試 験	各講習終了後に筆記試験を実施し、これを評価します。
教 材 ・ 参 考 資 料	当日、配付します。
事 前 課 題	有無については、各講習科目のシラバスに記載していません。なお、課題の内容や提出方法等は、受講申込みの後、手続き完了通知と併せてお送りします。

【担当講師】

講習科目名		担当講師氏名（所属・役職）
【C1】	児童生徒の理解に役立つ社会心理学	田中 豊 (情報学部 教授)
【C2】	持続可能な社会をめざす環境教育	三輪 信哉 (国際学部 教授)
【C3】	地理情報システムを利用した統計データの地図化と教育への活用	吉山 昭 (情報学部 准教授)
【C4】	カウンセリングと教員	木村 正徳 (商学部 講師)
【C5】	日本政治の諸問題	広野 好彦 (国際学部 教授)
【C6】	情報通信技術と教育	西田 知博 (情報学部 教授)

【C-1】 選択領域講習：児童生徒の理解に役立つ社会心理学

開講日	8月1日(水)	講習時間	9:00 - 10:20 <15分休憩> 10:35 - 11:55	12:55 - 14:15 <15分休憩> 14:30 - 15:50
時間数	320分	形態	講義・グループ討論	
教室	05-B1-01 教室	事前課題	なし	

講習科目名	児童生徒の理解に役立つ社会心理学
講師名 (所属)	田中 豊(情報学部 教授)
講習概要	社会心理学の研究成果の中から、児童生徒や教員の心理や行動、あるいはコミュニケーションの理解に役立つであろう内容について紹介すると共に、少人数のグループによるディスカッションや演習を実施し、講義内容について体験的に理解を深める。
到達目標	児童生徒や教員の人間関係やコミュニケーションに関する人間心理について理解を深めると共に、社会心理学的な分析方法やものの見方を修得する。また少人数のグループによる演習により、グループ演習やディスカッションを教育に用いることの効果やその意義についても理解を深める。
講習内容	<ol style="list-style-type: none"> 子供の発達とコミュニケーション・他者の認知(80分) <ol style="list-style-type: none"> 母子相互作用と愛着行動、教師の期待と子供の知的発達(ピグマリオン効果) 印象形成、対人認知に影響を与える心理特性 演習1(自己紹介・ディスカッション) <休憩 15分> 原因の推定とやる気・みんなと同じ方向への圧力・教員や生徒の役割と内面化(80分) <ol style="list-style-type: none"> 原因帰属と達成動機 同調 役割 演習2(集団討議の効果) <昼 食> 言語以外のコミュニケーションの重要性・環境とコミュニケーション(80分) <ol style="list-style-type: none"> 非言語コミュニケーションの分類と役割、個人空間(パーソナル・スペース) 生活環境や教室環境の心理的影響 演習3(コミュニケーション演習) <休憩 15分> 教室の人間関係の視覚化・うわさ話の信憑性(80分) <ol style="list-style-type: none"> ソシオメトリー 流言(うわさ) 演習4(流言の変容・伝言ゲーム)

認定試験	<試験時間> 16:05-16:55 (解答時間 40 分間) 途中退室不可 <教室> 05-B1-01
------	---

* 認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。

【C-2】 選択領域講習：持続可能な社会をめざす環境教育

開講日	8月1日(水)	講習時間	9:00 - 10:20 <15分休憩> 10:35 - 11:55	12:55 - 14:15 <15分休憩> 14:30 - 15:50
時間数	320分	形態	講義	
教室	05-B1-07 教室	事前課題	あり	

講習科目名	持続可能な社会をめざす環境教育
講師名 (所属)	三輪 信哉 (国際学部 教授)
講習概要	環境教育の歴史と動向を知り、学校内での環境教育の展開について深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地球環境の実態、環境教育の意義、歴史、動向に関する知識を深める。 ・ グループワークにより、環境に関連する参加型学習に関する授業案を作成する。 ・ 今後の学校における環境教育の展開について、理解を深め、企画力を高める。
講習内容	<p>1. 地球環境問題の現在までの変化と現状を知る (80分) (講義)</p> <p>① 近年の地球環境問題の現状を知り、未来の課題を深める。 〈休憩 15分〉</p> <p>2. 地球環境の将来と、今後の環境教育の重要性について (80分) (講義)</p> <p>① 今後の地球環境のありかた、方向性について理解を深める。 ② 環境教育がどのように取り込まれて現在に至っているか、日本における環境教育の現状について知る。 〈昼 食〉</p> <p>3. 学校での環境教育の実践例、取り組み内容の発表 (80分)</p> <p>① 本講習開始以前に実施する参加者対象のアンケートの結果を紹介し、実際に行っている特徴的な環境教育の取り組みについて参加者が報告する。 ② それをもとに学校における環境教育に関する課題や方向性について、グループ別にディスカッションをし、意見交換を行うことを通じてともに深めあう。 〈休憩 15分〉</p> <p>授業案の作成 (80分)</p> <p>環境教育を授業として実施する際の授業案を作成し、それを通じて実施する際の課題を話し合う。</p> <p>① グループに分かれて授業案を作成する。対象、テーマ、時間数、内容、シラバスなどを話し合い、各グループで作成した授業案について意見交換する。</p>

認定試験	<p>〈試験時間〉 16:05-16:55 (解答時間 40 分間) 途中退室不可</p> <p>〈教室〉 05-B1-07</p>
------	--

* 認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。

【C-3】 選択領域講習：地理情報システムを利用した統計データの地図化と教育への活用

開講日	8月2日(木)	講習時間	9:00 - 10:20 <15分休憩> 10:35 - 11:55	12:55 - 14:15 <15分休憩> 14:30 - 15:50
時間数	320分	形態	講義	
教室	02-03-05 教室	事前課題	なし	

講習科目名	地理情報システムを利用した統計データの地図化と教育への活用
講師名 (所属)	吉山 昭 (情報学部 准教授)
講習概要	地理情報システムと統計データサイトを学習指導に役立てる際の方法や留意点について認識を深める
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地理的なデータが他のデータと異なる点を理解する ・ 統計データサイトの活用と地図作成のために知識や技能を習得する ・ データに基づく地図作成と地図の読み取りの授業案を作る
講習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地理教育で地図と地理情報をどう扱うか (80分) <ol style="list-style-type: none"> ① 空間統計にまつわる問題 ② 地理的なデータの適切な表現方法と授業での扱い (休憩 15分) 2. 総務省統計局 e-Stat の利用 (80分) <ol style="list-style-type: none"> ① e-Stat にどのようなデータがあるかを概観する ② e-Stat を用いてデータの地図化を実践する ③ e-Stat の再集計機能を用いて地理情報システムの基礎を理解する (昼 食) 3. 地理情報システムアプリケーションの活用 (80分) <ol style="list-style-type: none"> ① さまざまな集計スケールのデータを地図化する ② 地図から読み取れることや関連することを考察する (休憩 15分) 4. データと地図を用いた授業案の作成 (80分) <ol style="list-style-type: none"> ① 各自の問題意識に基づいて選択したデータを地図に表す 5. 地図から読み取れることや関連することを発表する 6. 各自の学校における授業案および教材を作る

認定試験	〈試験時間〉 16:05-16:55 (解答時間 40 分間) 途中退室不可 〈教室〉 02-03-05
------	---

* 認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。

【C-4】 選択領域講習：カウンセリングと教員

開講日	8月2日(木)	講習時間	9:00 - 10:20 <15分休憩> 10:35 - 11:55	12:55 - 14:15 <15分休憩> 14:30 - 15:50
時間数	320分	形態	講義・ロールプレイ	
教室	05-B1-01 教室	事前課題	なし	

講習科目名	カウンセリングと教員
講師名 (所属)	木村 正徳(商学部 講師) ※担当講師の所属が変更になりました。
講習概要	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリングの考え方を理解し、教員にとっての意義を考える。 ・カウンセリングの理論(主に来談者中心療法)を学び、ロール・プレイを通じてカウンセリングの実際を体験する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング・マインドを身に付け、学校内外で生かせる。 ・自他の内面を考える習慣を身に付ける。
講習内容	<p>1) カウンセリングの考え方(80分)</p> <p>A. 心理療法について</p> <p>B. カウンセリング(来談者中心療法)について</p> <p>C. カウンセリングの理論</p> <p style="text-align: center;">〈休憩 15分〉</p> <p>2) カウンセリングと教員(80分)</p> <p>A. 教育相談の実際(教育相談のノウハウ)</p> <p>B. カウンセリングの事例(教育相談の事例より)</p> <p style="text-align: center;">〈昼 食〉</p> <p>3) カウンセリングの実習①(80分) ロール・プレイ(聴き方の基本)</p> <p style="text-align: center;">〈休憩 15分〉</p> <p>4) カウンセリングの実習②(80分) ロール・プレイ(聴き方訓練)</p>

認定試験	<p>〈試験時間〉16:05-16:55(解答時間40分間) 途中退室不可</p> <p>〈教室〉05-B1-01</p>
------	---

*認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。

【C-5】 選択領域講習：日本政治の諸問題

開講日	8月3日(金)	講習時間	9:00 - 10:20 <15分休憩> 10:35 - 11:55	12:55 - 14:15 <15分休憩> 14:30 - 15:50
時間数	320分	形態	講義	
教室	02-03-01 教室	事前課題	なし	

講習科目名	日本政治の諸問題
講師名 (所属)	広野 好彦 (国際学部 教授)
講習概要	自分たちの社会問題解決を、政治家に任せるのではなく、各自が知識をつけて考えるという主権者教育にとって大切なことを学校で実現する助けとなることを目指す。
到達目標	日本の政治システムについて理解する。 現在日本が抱えている問題について理解する。 上記二点についてかみ砕いた言葉で生徒に理解させる。
講習内容	<p>1. 「なぜ投票するのか？」－18歳選挙権の基本(80分) 講義と質疑応答 〈休憩 15分〉</p> <p>2. 「税金って何のために払うのか？」－国家財政の基本(80分) 講義と質疑応答 〈昼 食〉</p> <p>3. 「年金ってもらえるの？」－社会保障の基本(80分) 講義と質疑応答 〈休憩 15分〉</p> <p>4. 「国民投票って何？」－憲法改正の基本(80分) 講義と質疑応答</p>

認定試験	〈試験時間〉16:05-16:55 (解答時間40分間) 途中退室不可 〈教室〉02-03-01
------	---

*認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。

【C-6】 選択領域講習：情報通信技術と教育

開講日	8月3日(金)	講習時間	9:00 - 10:20 <15分休憩> 10:35 - 11:55	12:55 - 14:15 <15分休憩> 14:30 - 15:50
時間数	320分	形態	講義	
教室	02-03-05 教室	事前課題	なし	

講習科目名	情報通信技術と教育
講師名 (所属)	西田 知博(情報学部 教授)
講習概要	情報教育の現状と展望を解説した後、情報の科学的な理解を深めるための学習としてコンピュータを使わずコンピュータサイエンス(CS)を学ぶCSアンプラグドや、コンピュータの動作原理を体感するためのプログラミング学習について実習を交えて解説する。また、情報通信技術が子どもたちに及ぼす影響や注意点と指導のポイントについても紹介し、それに関するディスカッションも行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報教育の現状を理解する ・ CSアンプラグドや初学者プログラミング環境を通じて、難しく思える情報科学の諸概念の学習が容易であることを体験する ・ 情報通信技術が学校に及ぼす影響に関して理解する
講習内容	<p>1. 情報教育の現状と今後の展望(80分)</p> <p>① 初等中等教育における情報教育の現状</p> <p>② 情報教育変革の方向性</p> <p>③ これから教えるべきことは</p> <p style="text-align: center;">〈休憩 15分〉</p> <p>2. 情報の科学的な理解を進めるためのコンピュータを用いない学習(80分)</p> <p>① 情報科学を楽しく教える～CSアンプラグド</p> <p>② CSアンプラグドを用いたアクティビティ(実習)</p> <p style="text-align: center;">〈昼 食〉</p> <p>3. プログラミング教育(80分)</p> <p>① なぜプログラミング教育が必要か</p> <p>② プログラミング初学者のための学習環境</p> <p>③ 体験的プログラミング(実習)</p> <p style="text-align: center;">〈休憩 15分〉</p> <p>4. 情報通信技術が及ぼす学校への影響と情報モラル教育(80分)</p> <p>① 学校を取り巻く情報通信ネットワークの現状</p> <p>② 子どもたちが利用するネットワーク上のコミュニケーションサービス 情報通信技術にまつわるトラブルと対処(ディスカッション)</p>

認定試験	〈試験時間〉16:05-16:55(解答時間40分間) 途中退室不可 〈教室〉02-03-05
------	--

*認定試験終了後、教員免許状受講者評価書の記入をお願いしております。